

令和7年12月7日

東員町議会

議長 南部 豊 様

東員町議会

大崎 昭一

研 修 報 告 書

研修期間	令和7年11月26日（水）
研修（視察）先	東員町議会会議室
目的（テーマ等）	第2回ハラスメント研修 「みんなでつくるハラスメントのない議会」 モラルハラスメント⇒パワーハラスメント
参加議員名 （複数の場合）	全議員
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

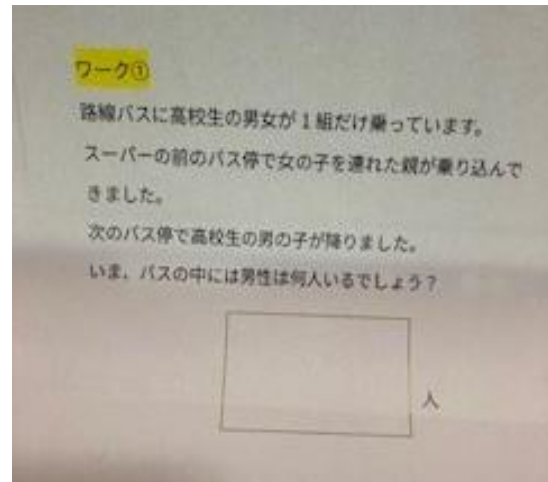
演題：第2回 みんなでつくるハラスメントのない議会

講師：石田弘美 先生

ハラスメント研修会は今回で2回目となり、はじめにワーク①（右・画像）で考えるところから始まりました。

（社会生活で刷り込まれた自分の考えにとらわれてはいけませんよ、という教育的観点と受け止めました）

今回は、パワーハラスメントとモラルハラスメントを中心に学習しました。以下、講義の概要を記します。



1、パワーハラスメントとは（パワハラ）

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、または職場内の環境を悪化させる行為。

〈精神的攻撃〉 〈身体的攻撃〉 〈過剰に要求〉 〈過小な要求〉 〈人間関係からの切り返し〉 〈個の侵害〉 等々に留意すること。

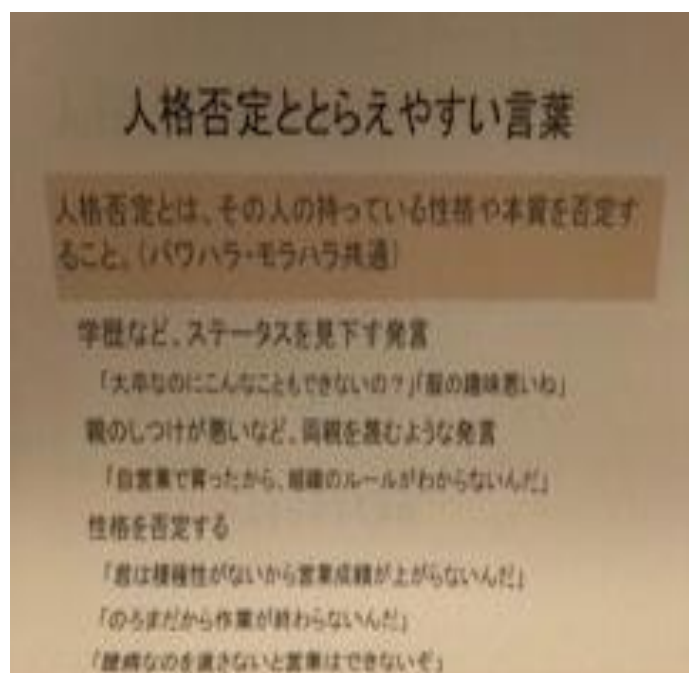
「業務上必要かつ相当な範囲の指導・注意」は当然必要であるが、「人格否定の言葉」は、パワーハラスメントになることを十分に肝に銘じておくことが大切であることが強調されました。人格否定ととらえやすい言葉を普段何気なく発していないかを自問自答することが大切である。

2、モラルハラスメントとは（モラハラ）

- ① 暴言、陰口、嫌み、侮辱などで精神を追い詰める
- ② 無視、仲間外れ
- ③ プライベートを攻撃、干渉
- ④ 仕事を妨害

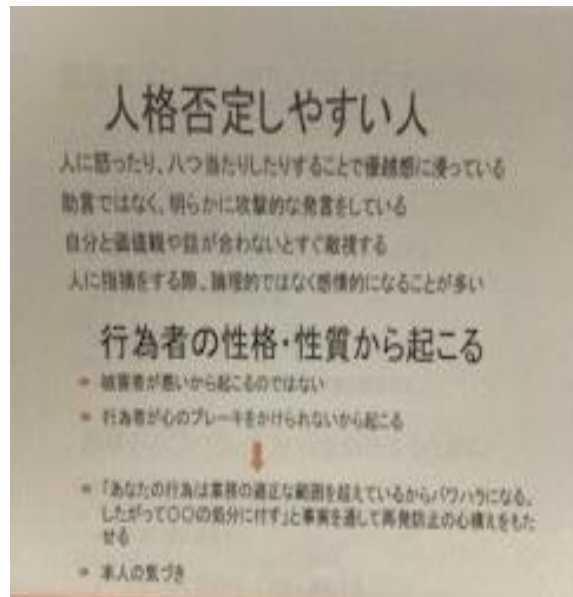
〈放置すると〉

被害者の休職・離職、精神疾患、自殺、仕事に対するやりがいの低下、訴訟・損害賠償、企業イメージの低下



人格否定しやすい人

- 人に怒ったり、八つ当たりしたりすることで優越感に浸っている
- 助言ではなく、明らかに攻撃的な発言をしている
- 自分と価値観や話が合わないとすぐ敵視する
- 人に指摘をする際、論理的でなく感情的になることが多い



行為者の性格・性質から起こる

- ◆ 被害者が悪いから起こるのではない
- ◆ 行為者が心のブレーキを掛けられないから起こる
- ↓
- ◆ 「あなたの行為は業務の適正な範囲を超えているからパワハラになる。したがって〇〇の処分に付す」と事実を通して再発防止の心構えをもたせる
- ◆ 本人の気づき

職場環境の改善に向けて

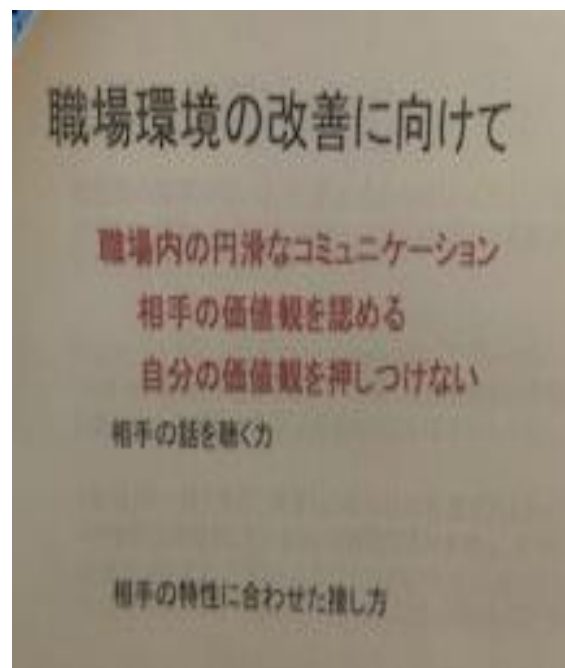
職場内の円滑なコミュニケーション

相手の価値観を認める

自分の価値観を押しつけない

相手のお話を聴く力

相手の特性に合わせた接し方



マイクロアグレッション

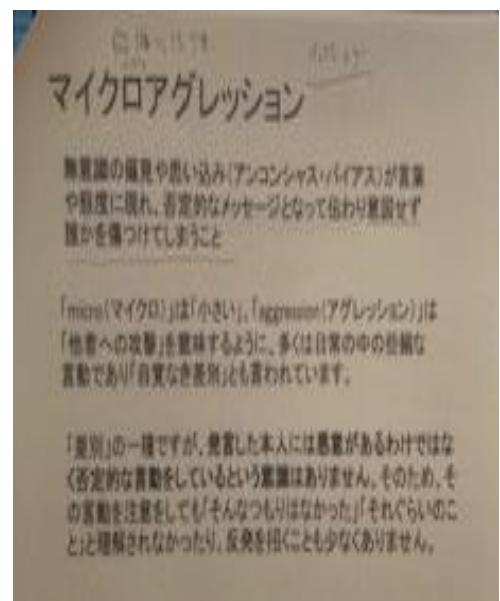
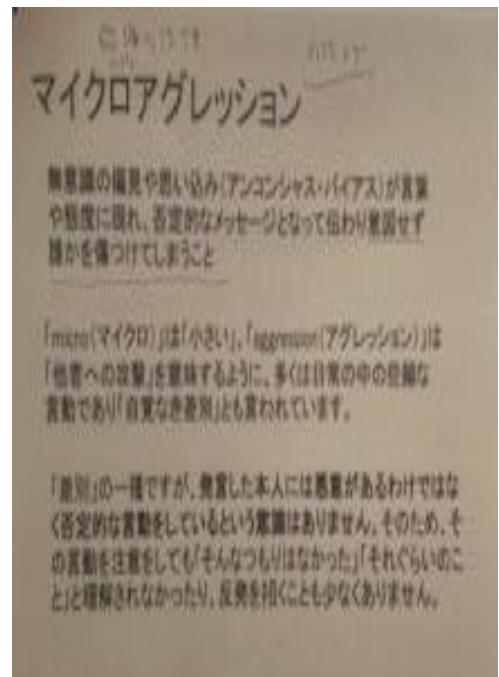
無意識の偏見や思い込み（アンコンシャス・バイアス）が言葉や態度に現れ、否定的なメッセージとなって伝わり意図せず誰かを気づつけてしまうこと

「差別」の一種ですが、発言した本人には意識があるわけではなく否定的な言動をしているという意識はありません。そのため、その言葉を、注意をしても「そんなつもりはなかった」「それぐらいのこと」と理解されなかったり、反発を招くことも少なくありません。

マイクロアグレッションを 自覚する

「アンコンシャス・バイアス」の一種であり、自分だけではなかなか気づかないので、「無意識・無自覚」に周囲に悪影響を及ぼす。

自分のマイクロアグレッションに自覚がないと、直すことができないため繰り返す。その悪影響の大きさや範囲にも気づけない。指摘されても謝ろうとしない。しかし、気づけるようになると「自覚的・意識的」になり改善していくことができる。



「気づかないと」

「気づくと」

繰り返す	➡	繰り返さない
悪影響がわからない	➡	やってもすぐに気づける
修正できない	➡	修正する
謝らない	➡	謝れる
行為に加担する	➡	支援者になれる

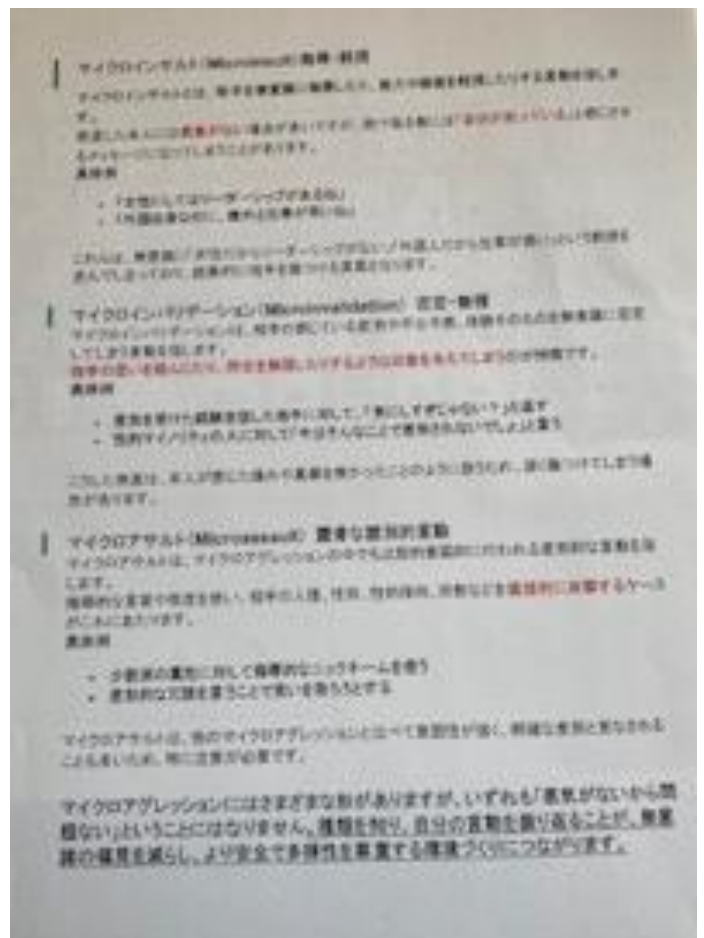
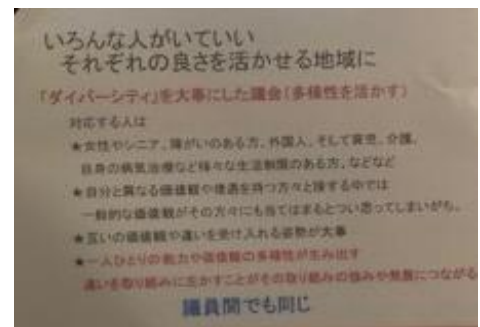
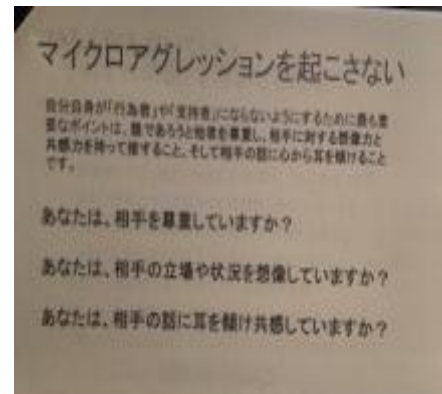
マイクロアグレッションを起こさない

自分自身が「行為者」や「支持者」にならないようにするために最も重要なポイントは、誰であろうと他者を尊重し、相手に対する想像力と共感力を持って接すること、そして相手の話しに心から耳を傾けること。

いろんな人がいていい
それぞれの良さを生かせる地域に

一人ひとりの能力や価値観の多
様性が生み出す
違いを取り組みに生かすことが
その取り組みの強みや発展につ
ながる

議員間でも同じ



〈所感〉

講義は90分余にわたり、パワーポイント23頁プラスA4用紙4枚にわたり、きめ細かく、お話をいただいた。その報告レポートにあたっては、議員活動において大切にしたいことを記した。これからの活動に生かせる講義でした。

冒頭の「ワーク①」について私の思考回路はこうでした。

- ① 「親が乗り込んできた」 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 「親」は男性とも女性とも設問にはない。
- ② 運転士は「男性」との思い込みがあった。 ・ ・ ・ 「運転士」は男性なのか女性なのかは不明である。
私は、スーパー前 ・ ・ ・ 、女の子を連れた ・ ・ ・ 、 <直感的に「母親」と思った。 >
運転士のことは設問に何も無いのにも関わらず ・ ・ ・ 、 <直感的に「男性」と思った。 >
- ③ 設問をよく吟味すと回答は3通りある。 A：ゼロ人 B：1人 C：2人。
- ④ この設問の主意は何か。それは、物事を自己の知的経験や社会通念で判断してはいけない。対人関係で思い込みは厳禁である。
- ⑤ このことを「悟り」ました。

ハラスメント研修を受ける中で、私は、2点思い浮かべました。イソップ寓話の「兎と亀」物語と詩人金子みすゞさんです。

子ども時代、兎のように自己過信、油断すれば失敗する、亀のようにあきらめなければ成功もある、と教えられ、それを自分の常識的世界観とと思ってきました。しかし、青年期に、この「兎と亀」物語には、別な角度からの考え方、思考もあることを学びました。それは、①兎は野山を駆け巡ることが得意な生き物、泳ぎはできない。②亀は水中を泳ぐことができる生き物。③、①と②がなぜ競争するのか、というものでした。④各々個性ある生き物が競争すること自体がおかしい。特性の違いを認め合い、協力し合う、という学びでした。

それ以来、私は、自己能力を研鑽することの大事さ、と、他者の個性を尊重し合うことのできる社会の建設の両面を大切に生きる方を選びました。

今一つは、詩人金子みすゞさんです。

詩「大漁」

朝焼け小焼だ、大漁だ。大羽鰻（おおばいわし）の大漁だ。浜は祭りのようだけど、海のなかでは何万の、鰻（いわし）のとむらいするだろう。

詩「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面（じべた）を速くは走れない。私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。

これらの詩は小学校の国語教科書にも掲載され、子どもたちに「立場を変えて物事を見る想像力」を育む詩とされています。

金子みすゞさんは1903年（明治36年）に生まれた人です。

1世紀前の女性が、ハラスメントのない、人間愛に満ちた社会を描いていたのです。

石垣弘美先生の講義を基礎にして、東員町議会はもちろんのこと、日本が、世界が、ハラスメントのない、心豊かで、温かな人間関係の社会実現目指してこれからも努力してまいります。

以上